

「わくわく」進化中！ サウナハットから広がるモノづくり

サウナブームに沸く昨今。日本でサウナが広がったのは、昭和三十九年、東京オリンピック時に来日したフィンランドの選手が選手村にサウナを持ち込んだことがきっかけと言われています。そこから数えて「第3次サウナブーム」と呼ばれる今、サウナ好きは「サウナー」と呼ばれ、サウナの楽しみ方はマンガやドラマの影響もあり、年齢・性別など問わず、広がっています。そんな「サウナー」達の愛用アイテムのひとつが「サウナハット」です。

今回は、この「サウナハット」の製造、販売に着手した、株式会社 TAMAX の代表取締役 玉腰光太郎さんと息子の竜之介さんに、開発のきっかけや今後の展開についてお伺いしました。



株式会社 TAMAX
代表取締役 玉腰 光太郎 さん(右)
玉腰 竜之介 さん(左)

サウナーだからわかる 使い心地のよい「サウナハット」！

玉腰光太郎さん 五十五歳。五十年前から岐阜市内で服飾付属品の製造・販売業、株式会社 TAMAX(タマックス)を営んでいます。主力製品は「肩パッド」。その素材にはこだわりがあり創業当時からペットボトル等を再生したりサイクル不織布を使用し、環境にやさしい製品作りに取り組んでいます。その肩パッド製造の技術を活用して、目下注力する商品が「サウナハット」です。

きっかけは、光太郎さんの息子で、社員の竜之介さんの発案でした。竜之介さんは、全国各地のサウナを巡り、温浴施設をほしごするほどの「サウナー」です。

「今から二、三年ほど前に流通していたサウナハットの素材は羊毛フェルトで作られているのが一般的で、かさばる上に、乾きにくい素材が多くありました。行き帰りの持ち運びや、温浴施設をほしごした際の次の施設で濡れた状態での使用は不快でした。価格も、当時は高価なものもありました。サウナハットは「サウナー」が気持ちよくサウナを楽しむために欠かせないものです。もう少しお手頃な価格で、使い心地の良い素材のものがあるといいな、と思ってい

ました」

そこで、サウナハットをもっと手軽で身近な存在にしたいと竜之介さんは思い立ちました。フェルトは羊毛など動物繊維を原材料としていますが、よく似た素材にポリエステルなど化学繊維を原材料とする不織布があります。それはまさに肩パッドの素材でした。竜之介さんにとっては大変身近な素材です。

「不織布の製品なら、裁断も縫製も自社ですべてできます。かさばらず、サウナハットに適した素材でもあるため、自分たちで作れると思いました」

そんな竜之介さんの考えや想いを聞いた社長の光太郎さんは、当時のことをこう振り返ります。

「コロナ禍で、衣生活が変わりアパレル業界は苦戦していました。その中で、新しい商品を手掛けられること、そしてそれが、私には思いもつかない商品でした。私はサウナに関して全く知識もありませんでしたが、話を聞くうちに一緒に商品開発していきたいと「わくわく」してきました」

こうしてタマックスの商品開発「サウナハット」作りがはじまりました。サウナハットを作るにあたり、竜之助さんがこだわった点は「三つ」。

「一つ目は『軽さ』です。衣服を

着用しない温浴施設では、帽子一枚がとて重く感じます。とにかく軽さを追求しました。そして、『通気性のよい『速乾性』。そして『コンパクト』です。持ち運びしやすいうよう、コンパクトに折り畳めるよう工夫しました」

作業していくうちに素材の組み合わせにより、暑くなりすぎたり、通気性が良くなかったりと、大きな差が出ることも分かってきました。竜之介さんは何通りもの組み合わせの試作品を作り、実際にサウナで使用し、使い心地を追求しました。更に、こだわりを追う中で肩パッドや脇パッドの技術から『消臭』が加わりました。改良に改良を重ねた不織布のサウナハットは、令和三年、遂にクラウドファンディングでの発表に至り、百七十人の購入という嬉しい結果となりました。

「岐阜に住むサウナーの方々、岐阜発のサウナハットならば、と快く応援してくれたこともあり、予想を超える反応でした」

「サウナハットの輪」拡がる！

タマックスでは、クラウドファンディングをきっかけに、SNSなどで様々なサウナーたちとの交流が広がりました。そしてその交流の様子をみて興味を持った温浴施設や企業からコラボレーション

が持ちかけられるようになりました。「サウナー達は、各々の温浴施設の『オリジナルグッズ』を使用することで、お気に入りの施設との一体感を楽しめます。そのため、店オリジナルのサウナハットを置く施設が増えました。サウナー達はお気に入りの施設や、企業コラボのオリジナルサウナハットを、別の温浴施設や温浴施設以外などでも使用するの、そこに宣伝効果も生まれるのです」

この効果は岐阜への観光誘客にも繋がると竜之介さんは言います。「サウナには水風呂が付き物ですが、水がきれいな街のサウナは全国的に人気があります。その点で、岐阜はサウナーにとって大変人気がある街です。全国からサウナに入るために多くの方が来ています。せっかく岐阜に来てくれたならサウナ以外の岐阜の良さや、美味しい食べ物を知ってもらいたい。SNSを活用して、同じように岐阜の街を盛り上げたいと頑張っている人たち、異業種の人たちと繋がってみんなで岐阜を盛り上げたいです」

そんな竜之介さんの想いは光太郎さんも同じです。「サウナハットを通してモノづくりの楽しさを実感し、改めて岐阜に対しての想いが強くなりました」

岐阜は駅から公共交通機関で簡単に行ける所に山や川など素晴らしい自然があり、川原町などの趣きのある町並みもあります。きっかけはサウナでも何でもよいのです。色々な角度から岐阜の良さを提案できたら、訪れてくれる人はますます増えるのではないだろうか」

ありそうでない、 あったらうれしいをつくりたい

「肩パッド製造はB to Bでしたので、以前は商品の一部だけを作っている、という認識でした。しかし、サウナハットの手応えよさを知りました。お客様からの声もダイレクトに聞け、企画生産販売に力を入れるB to Cの取り組みは、長年培ってきた肩パッド製造技術や材料の知識を生かせる充実感もあり、今ではメーカーとしてやっていく自信ができました」

そう光太郎さんは笑顔で話します。タマックスでは、昨年の十二月には、返却式ロッカーや靴箱に必要な百円玉をスマートに保管できるコインケースを発売し、一週間で百個も売上げました。

「温浴施設へ行ったとき、百円玉を用意する不便さを解消するためだけに作りました。自分が便利のために開発した商品でしたがSNSのユーザーからの声に『ランニ



カバンに簡単に取り付けることも可能
[百円玉専用コインケース HOOLD (ホルド)]



「新しいジャンルにもどんどん挑戦していき、ありそうでない、くだらないけどあったらうれしい、そんな面白いモノ、自分が楽しいと思ったモノをどんどん商品開発していきたいです」

二人のモノづくりの源は「わくわく」です。光太郎さんと竜之介さんで二人三脚、これからも二人の「わくわく」は進化し続けます。